

Efficacy of therapeutic soft contact lens in the management of gelatinous drop-like corneal dystrophy.

Br J Ophthalmol. 104 :241-246. 2020

(膠様滴状角膜ジストロフィにおける治療用ソフトコンタクトレンズの有用性)

Maeno S, Soma T, Tsujikawa M*, Shigeta R, Kawasaki R, Oie Y, Koh S, Maruyama K, Kawasaki S, Maeda N, Nishida K.

Efficacy of therapeutic soft contact lens in the management of gelatinous drop-like corneal dystrophy.

Br J Ophthalmol. 2020

Feb;104(2):241-246. *corresponding author

文責：再生発生医学研究室 辻川元一教授

膠様滴状角膜ジストロフィ（GDLD）は日本人に比較的多い重篤な遺伝性疾患で、私が院生の時に原因遺伝子をポジショナルクローニングで単離した疾患です。（Tsujikawa M. et al. Nature Genet. 21, 420-423, 1999）大阪大学においては引き続き一貫して病因論や治療法の検索を行っており、Tight Junction の崩壊が病因の主因であることを突き止めています。今回の論文は、治療に関するもので、本症例には経験的に治療用ソフトコンタクトレンズ（SCL）の連続装用が行われているが、その科学的根拠ない状態でした。本研究においては過去 15 年間大阪大学を受診したすべての GDLD 患者 20 名 40 眼に対して、SCL の装用の有無において、臨床症状の進行の遅延等が認められるかを検討しました。結果、SCL 装用は角膜表面の膠様隆起性病変を有意に抑制しており、視力については進行抑制の傾向を示しました（有意差水準は得られませんでした。）。特に重要なのは生存曲線解析より、SCL 装用は有意に手術介入までの期間を遅らせ、手術介入を明らかに少なくする方向に働いていた点です。これらの結果より SCL 装用は GDLD 管理において重要な介入手段であることが証明されました。20 名は大多数というわけでないですが、臨床所見を後ろ向きに採集するのには非常に苦労しました。前野先生は欠損のあるデータから丁寧に結果を積み上げ長年の疑問について解答を出してくれました。